

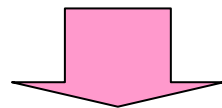
障害者の雇用・就労促進のための 関係行政機関会議

平成18年4月26日

主催 文部科学省 厚生労働省

福祉・雇用・教育のネットワーク(利用者にとって)

- 1 ライフステージを通じて、必要な時期に、適切な支援を受けることが可能に。
- 2 就労に関して起こりうる様々な問題に関して、適切な分野の支援を受けることが可能に。
- 3 どの窓口へ行っても、必要な支援に結びつく。



安心感を持って、様々なステップにチャレンジできることにより、ニーズに合った就労が可能に。

福祉・雇用・教育のネットワーク(支援者にとって)

現状と問題点

1 各分野の「就労支援」の在り方に関するイメージの不一致

【具体的な問題点】

- ・ 他の分野が各分野にどのようなニーズを持っているかが分からない。
- ・ 障害者本人の能力に関する評価が、各分野ごとに共通していない。
- ・ 教育・福祉分野において、障害者の就労を「ハードルの高いもの」と思いがち。

2 ライフステージごとに支援が分断されがちである

【具体的な問題点】

- ・ 支援が分断されることへの不安から、利用者が一つの分野に滞留する傾向。

3 最初に支援を求める分野によって、支援の方向性が規定される傾向がある

【具体的な問題点】

- ・ 各分野それぞれで、支援を自己完結させようとする傾向。
- ・ 結果的に、他の分野における適切な支援に結びつきづらい。

ネットワークがあれば

1 各分野の「就労支援」に関するイメージの共有化

【改善される点】

- ・ 各分野の強み、弱みや、それぞれのニーズに関して共通認識を持つことで、効果的な役割分担が可能に。
- ・ 障害者の能力に関する評価の共有が可能に。
- ・ 「障害者の就労」に関するイメージについてのハードルを低くすることが可能に。

2 ライフステージを通じた一貫した支援が可能に

【改善される点】

- ・ 各分野が情報を共有することにより、ライフステージを通じた切れ目のない支援が可能に。
- ・ 利用者が安心感を持って、必要な次のステップへ踏み出すことが可能に。

3 どの窓口へ行っても、同じ支援に結びつく。

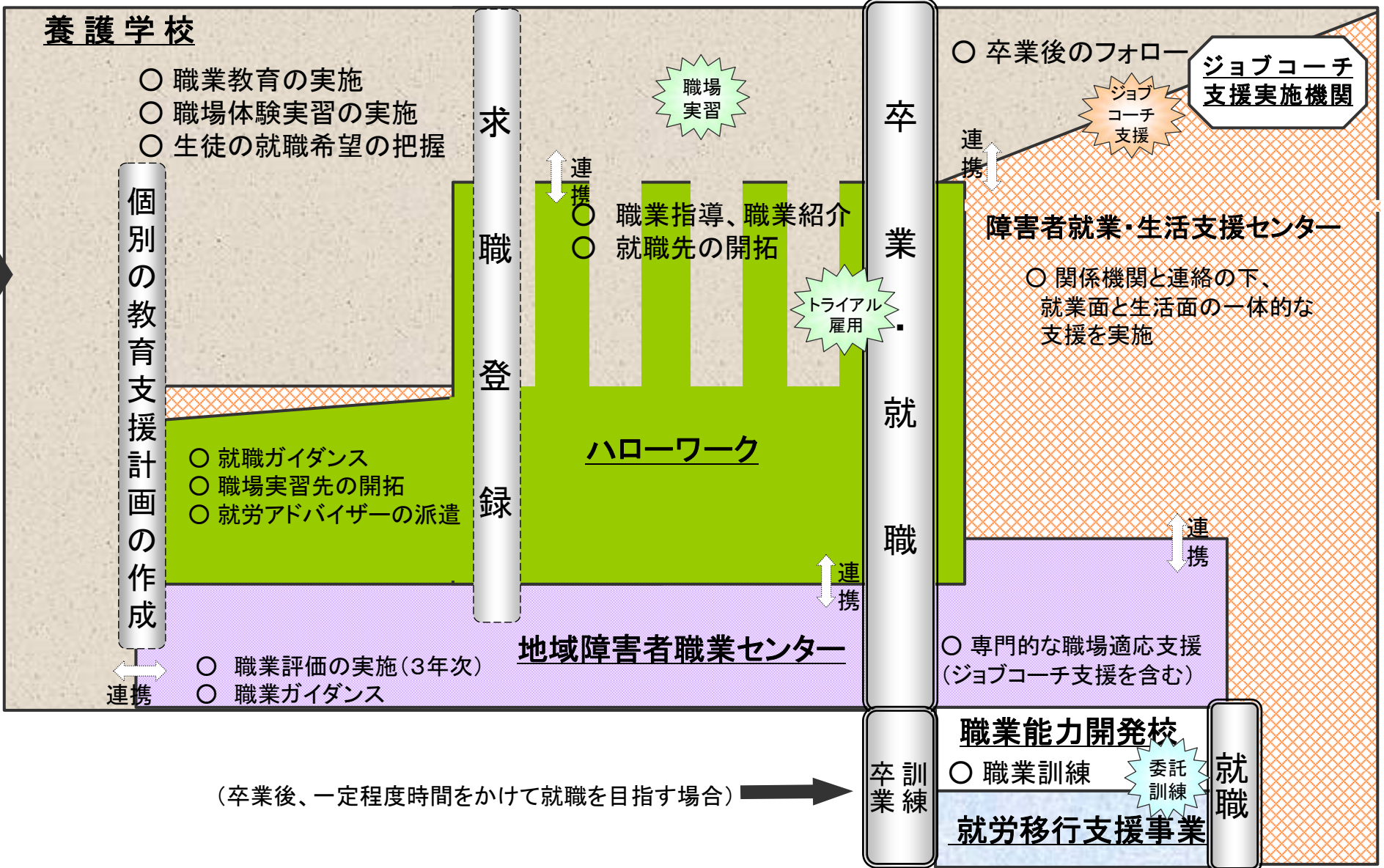
【改善される点】

- ・ 各分野が、支援を自己完結させずに、必要に応じて、適切な他の分野のサービスに結びつけることが可能に。

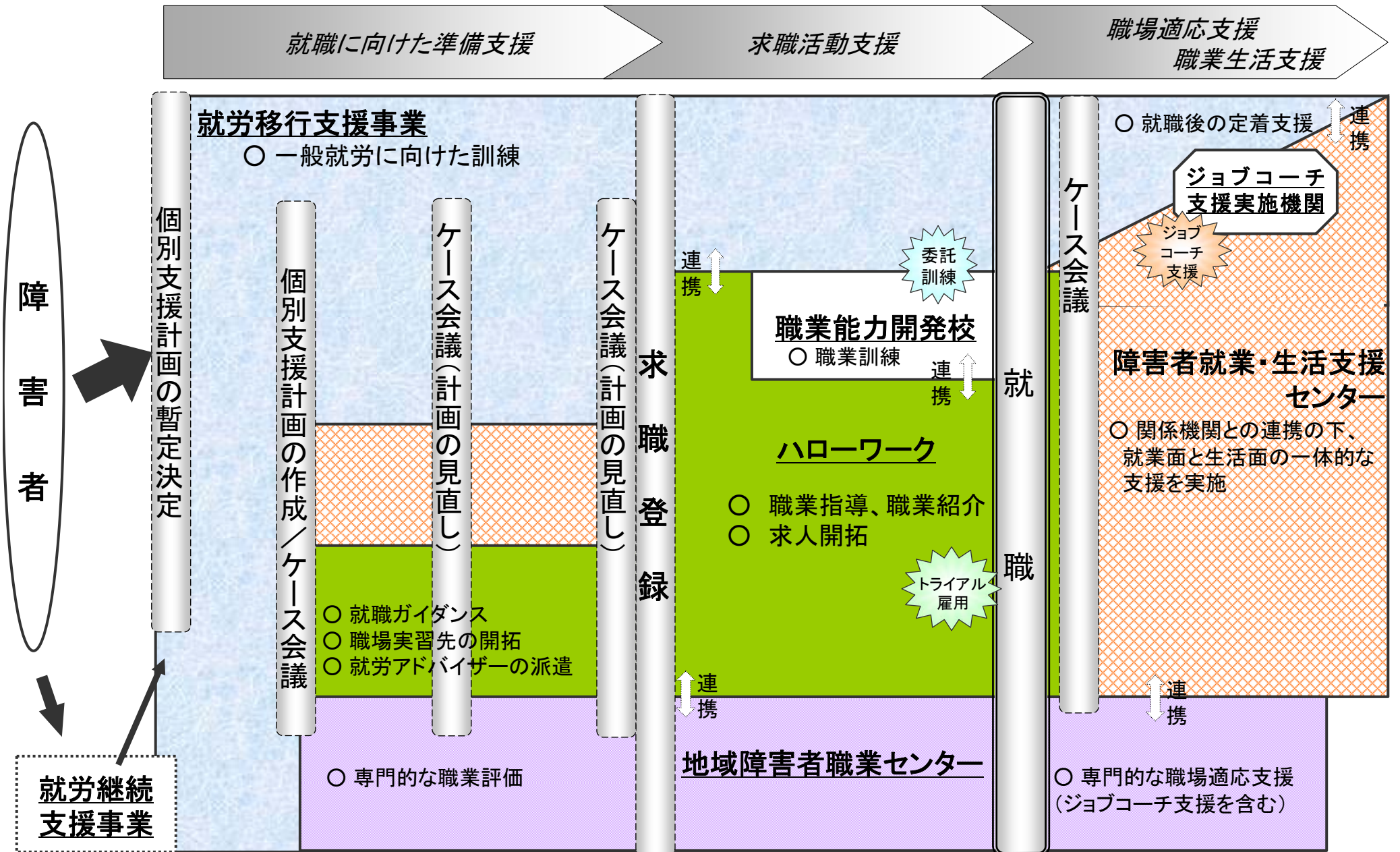
養護学校卒業者が就職・定着するまでの標準的な支援



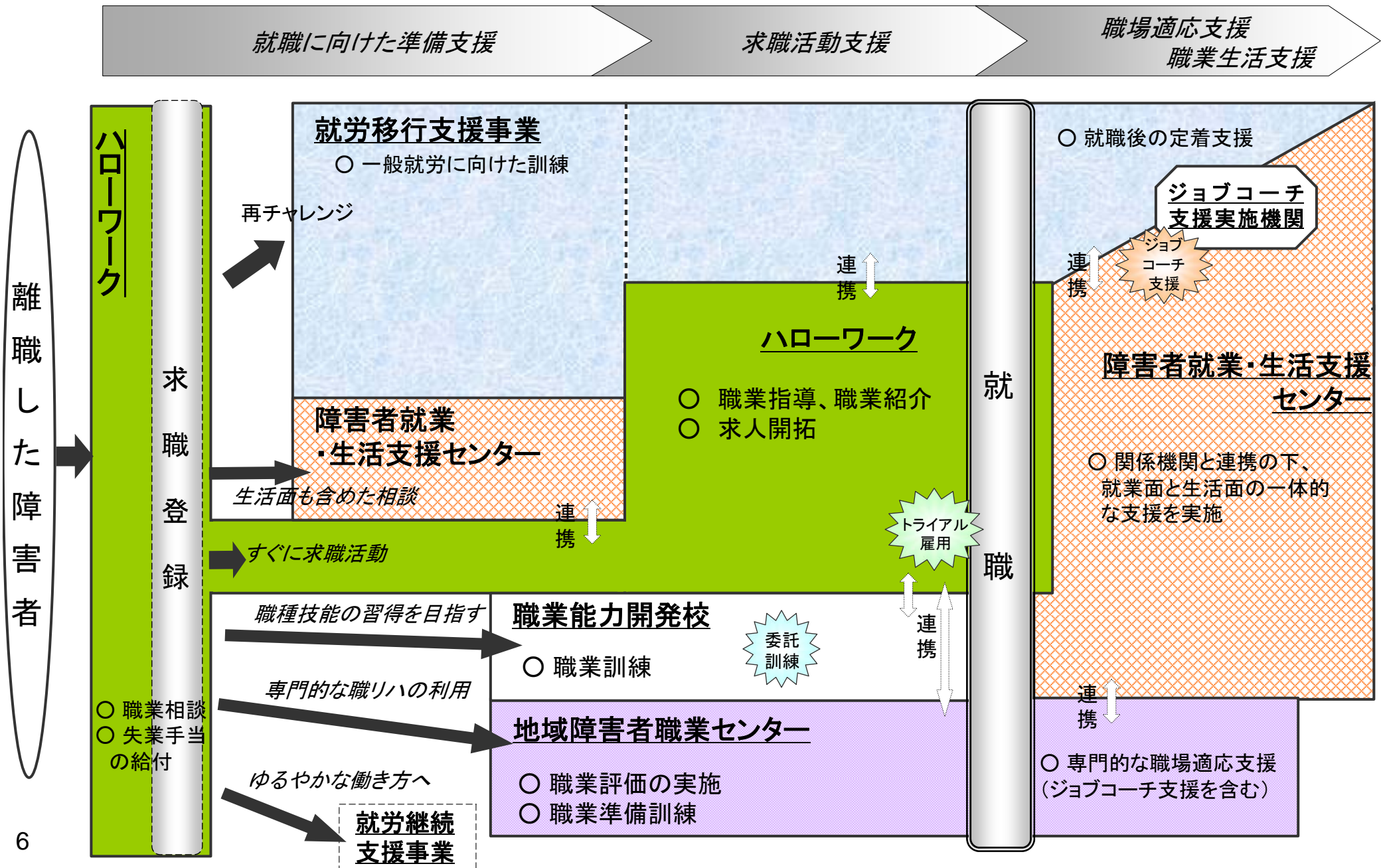
障害者



福祉施設を利用している障害者が就職・定着するまでの標準的な支援



離職した障害者が就職・定着するまでの標準的な支援



都道府県・圏域における就労支援ネットワーク

【A県の場合】

「A県障害者雇用合同部会（仮称）」を設置

